

## 奈良県立医科大学第2期中期計画に見る看護学科と附属病院看護部の協働

高橋美雪

奈良県立医科大学附属病院 看護部長

## Collabotation between the Nursing Division of the University Hospital and the Faculty of Nursing Based on the Second Mid-Term Plan of Nara Medical University

Miyuki Takahashi

Director, Division of Nursing, Nara Medical University Hospital

2013年(平成25年)に奈良県立医科大学の第2期(2013～2018年度)中期目標・中期計画が示され、その取り組みも最終段階を迎えます。

第2期は新たに「地域貢献」が加わり、「看護学生の就労支援を行い県内就職率の向上に努める。」「附属病院看護部と看護学科が協働・連携する体制を構築し、看護職員等の教育・研修プログラムおよびキャリア支援を充実させることにより地域の看護師のレベルアップを目指す。」ことが課題でした。これらを実践するために「看護実践センター」の設置が計画され、会議を重ね準備を経て2014年(平成26年)4月に現在の「看護実践・キャリア支援センター」が設立されました。事業開始初年度から看護学科学生のキャリアデザインのサポートとして講演会や看護部看護師との懇親会を開催、また、学内に限らず地域の看護師を対象に研修・講座を開催するなど精力的に取り組まれてきました。キャリアデザインのサポートは現在まで継続され、結果、看護学生の県内就労目標値の達成に大きく貢献していると思います。

2015年(平成27年)4月、折しも事業計画を実践に向けてより拡大して取り組んでいくというときに、私は附属病院の看護部長に就任しセンター長を兼務することになりました。不安はありましたが当時の看護学科長だった軸丸教授が副センター長として支えて下さる(実際にはお任せして)という心強い言葉が、看護学科と看護部の交流をより緊密により強固にしたいという想いと「大丈夫だ。」という確信に変わりました。

事業は大きく分けると「看護基礎教育」「看護実践教育」「研究支援・実践」「地域貢献」「その他」の5つになりますが、いずれにおいても看護学科と看護部の協働は欠かせません。看護学生から新人・現任教育まで一貫した教育体制のもとで大学および病院の理念に基づいた人材を育成することができることは教育現場にとっても臨床現場にとっても心強く、時代に即した新たな挑戦も可能であると思っています。

2016年(平成28年)から実習指導者が基礎看護技術の演習に参加するようになり、看護協会で実習指導者講習を受講した看護師が実際に学生と交流し、講習で学んだ

学生のレディネスを身近に感じることができました。また、学生は演習に臨床の看護師がいることで現実味を帯びた体験ができていると思われまふ。さらに実習の際には、演習で関わった看護師が指導者としていふことは少なからず安心感を与えていると自負しています。そもそも看護学科の人員不足を解決するために提案した対策だったので、合理性のある人材育成になりました。

翌年には指導者として5年以上の経験がある助産師・看護師を5つの各領域の講義・演習に関わることによって実習指導者が教育指導者としてより成長できたと確信しています。これは、上級臨床指導者育成プログラムとして看護学科の石澤教育部長をはじめ、実習担当の五十嵐教授、各領域の先生方のご協力があって実現したものです。今後、この教育体制が確立できれば、実習指導者の教育能力育成に留まらず、助産師・看護師が教育者を目指す動機付けにもなり、効率的な人材育成も期待できます。

現在、看護部から看護学科に教員として異動し、学生教育に携わっている看護師が少しずつですが増えてきています。こうした人事交流を進めながら、教育と臨床それぞれの知と技と心が融合できれば素敵な看護職、看護学者を育てることができるのではないかと思います。そして、できることならば看護学科に修士課程だけでなく博士課程が設立されることを祈るばかりです。

専門職として自ら看護の質の向上を目指して研究、研鑽し、科学的根拠の基に実践する人材の育成は臨床が抱えている課題の一つです。看護研究の指導者の育成として看護主任が看護教員の支援を受けながら看

護研究を行い、学外での発表を目標に取り組みました。2年越しで学会発表、論文投稿まで至った研究もあり、さらなる自己研鑽とこうした学び、研究のプロセスを後輩指導に役立ててもらえると期待しています。

その他、チェンマイ大学附属病院看護師の研修受け入れも2015年から開始し、国際交流の一環として看護学科と看護部が支援し友好関係を築いていることも大きな成果です。

ちなみにチェンマイ大学附属病院の看護師の30%が博士課程を修了していることは見習うべきところであり、本学が今後の課題とするところだと思います。

また、センター事業とは別途、2016年に開始した奨学金制度で、在宅看護特別教育プログラムを本年4月から実施する学生が第1期生として附属病院に就職予定です。病院での基本的な知識・技術・態度を習得しながら、訪問看護ステーションで在宅看護を学び、実践する3年計画の研修プログラムです。在宅看護学の小竹教授をはじめとする教員の先生方と看護部、そして訪問看護ステーションとの協働により進めていきますが、こうした事業計画も看護学科と看護部の連携がなければ成り立ちません。看護学科と看護部は協働・連携し、学内・学外を問わず、まさに地域貢献、社会貢献をしてきたと言っても過言ではないでしょう。

次期中期計画・目標は新キャンパス移転など新たな展望を踏まえてさらに拡大、発展した検討がされていくことと思ひますが、看護学科と看護部の関係がこれまでと変わることなく、さらに充実したものとなることを願っています。